

自 己 評 価 表

(令和2年度)

教育方針	国家社会の有為な形成者として、個人の尊厳と責任を重んじ、豊かな文化の創造と国際社会に寄与する、徳・知・体の調和の取れたたくましく生きる人間を育成する。	重点目標	1 誠実で礼節を重んじ、活力に富む健全な心身を養う。 2 学習意欲を高め、自ら学び自ら考える力を養う。 3 一人一人の個性を伸ばし、豊かな感性や創造力を養う。 4 広い視野で、生涯学習社会を生き抜く自己教育力を養う。
------	---	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	家庭学習の充実	一定時間機に向かう習慣が定着するよう、各教科で課題の出し方を工夫するとともに、各HR・学年で学習への意識高揚を図り、1日120分以上の家庭学習時間を旨す。 A:120分以上、B:90~120分 C:60~90分、D:30~60分、E:30分未満	C	調査発表期間は平均2時間程度学習できているが、平日は1時間弱程度しか学習できていない。	家庭学習時間確保のため、各教科で課題の出し方の工夫をする。個に応じた予習・復習の方法を指導するなど、調査発表期間以外の家庭学習時間の増加を図りたい。
	教科指導力の充実	教科内及び教科間の情報交換や研究を継続・発展させ、授業の満足度や学習意欲を高め、教員の授業力向上に活用する。	A	生徒による授業評価アンケートの全教科平均は1・2学期とも5点満点中4.7で高評価であった。	教科内及び教科を横断しての情報交換や研究を継続し、満足度を更に高めたい。
		研究授業や相互参観授業週間で、年間4回程度以上授業を参観して研修を深め、教科会や学年会などの研修も踏まえて授業力向上に努める。 A:4回以上、B:3回、C:2回 D:1回、E:0回	C	全教科グループの研究授業、授業研究会は時期の変更はあったが実施できた。ICT機器を効果的に使用した研究授業が増えた。授業研究会では、活発な意見交換が行われており、他教科の意見も取り入れることができた。1人当たりの年間相互授業参観回数は3回未満と、目標を達成することができなかった。	評価シートの改善により、相互参観しやすい体制づくりに努める。電子黒板が整備されたことから、ICT機器の効果的活用方法や教科横断的な授業の在り方についての研修にも努めたい。
	資格取得の奨励	各種検定の1級合格者延べ50人以上を目標に個別指導等を徹底し、上級資格取得の奨励に努める。基礎基本・実務に役立つ2・3級合格者を確実に増加させる。 A:50人以上、B:40~50人 C:30~40人、D:20~30人、E:20人未満	B	コロナ禍の影響もあり、1級合格者は、商業関係で4名、家庭科関係で36名で、目標の50名を達成できなかった。	資格取得は進路実現につながることから、資格取得に取り組む生徒数の増加を図り、継続して延べ50人以上の1級合格を目標として頑張らせたい。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	生徒の変化の兆候を早めに把握し、個に応じたきめ細かな生活指導と家庭との連携によって、全校出席率98%以上を維持する。 A:98%以上、B:96~98% C:94~96%、D:92~94%、E:92%未満	A	全校出席率は98.0%で目標を達成している。	2学期以降欠席・遅刻等が増加している。長期休暇の過ごし方を含め、より高い意識を持って学校生活に取り組ませる指導が必要である。
		5分前登校指導を徹底し、遅刻ゼロの日70日以上を旨す。 A:70日以上、B:55~70日 C:40~55日、D:30~40日、E:30日未満	E	開校日数減少の中、遅刻ゼロの日は11日(12月末現在)に留まった。生徒の多様化に伴い一部遅刻が多い生徒がいるが、ほとんどの生徒が5分前登校できている。	遅刻の背景にある要因を分析し、担任・学年団を中心に生徒の実態に応じた指導を行いたい。
	生徒理解の推進	生徒一人当たり年間4回以上の面接指導を通して、生徒理解と指導に努める。 A:4回以上、B:3回、C:2回 D:1回、E:0回	A	年間3回の面接週間を設定した。学年団を中心として、担任が適時、適切に生徒に向き合い、生徒理解に努めることができた。	次年度についても、担任・学年団を中心として継続して面接指導を行う中で、より生徒との関わりを深めていきたい。
	環境整備への主体的な取組	環境美化への意識を高めさせ、清掃時間だけでなく、普段から校内美化に努める。地域行事にも主体的・積極的に取り組む態度を養い、奉仕の精神を育む。	C	生徒の環境美化への意識を高めるため、清掃時は徹底して担当場所の清掃指導に当たるように心掛けた。	美化委員会から全校生徒への環境美化を呼び掛けるなど、各クラスの美化委員が中心となった活動となるように、委員会の活動を活性化したい。
	ルール厳守とマナー向上	街頭交通指導の回数を増やし、ヘルメットの着用をはじめ、命の大切さについての指導を行う。ルールを遵守し、マナーを向上する態度を育成し、交通事故ゼロを達成する。	B	ヘルメット無着用についての指摘は減ってきているが、道いっぱいに広がっての登下校や、ながらスマホ等の交通マナーに対する外部からの指摘が増えた。	ヘルメットの着用をはじめ、命の大切さについての指導を継続して粘り強く行うとともに、地域からの指摘に対しても巡視回数を増やす等の対応を継続していく。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
進路指導	個に応じた進路保障	1年次から進路意識を高める指導を継続的に行う。多様な入試（小論文、集団討論、プレゼンテーション等）に対応した力を育成することで、希望進路達成率100%を目指す。 A:100%、B:90～100%、C:80～90% D:70～80%、E:70%未満	B	希望進路達成率については、1月末に3年生にアンケートを実施する予定である。新型コロナウイルスの影響で、直接、上級学校を訪問できない状況の中、オンラインガイダンスを積極的に実施した。また、1年次より進路マップを受験できるようにして、基礎学力定着に努めた。	オンラインガイダンスと対面式ガイダンスを併用しながら、進路希望に応じた多様な指導を進めたい。3年生アンケートの結果を参考に、改善できる部分は改善し、生徒の希望する進路に沿ったきめ細かな指導を目指していきたい。
	進路指導力の向上	多くの教員が大学や業者等の説明会に参加し、情報を校内のネットワークシステムや教科会、学年会等を通して全体で共有する。	C	多くの説明会が中止となり、情報共有を図る機会が少なかった。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、入試そのものが大きく変わってしまい、対応が難しかった。	現状を考えると、次年度も入試日程や内容の変更が多くなると思われる。全体で迅速に情報を共有するシステムを構築していきたい。また、改訂した進路のしよりの積極的活用を促したい。
	キャリア教育の推進	インターンシップの事前指導や取組を生かし、生徒が自ら考え、行動する力を育む。専門的な分野についての体験学習や、職場見学など、職業理解の機会を増やす。	B	昨年度まで、日程が別々であった普通科とライフデザイン科のインターンシップを2月初旬に同じ日程で実施する。その問題点等については、実施後検討したい。	インターンシップの準備を今年度より1か月程度早めて、各企業の紹介等をじっくりと行いながら、職業観育成に力を入れていきたい。
特別活動	部活動の充実	運動部各部において、計画的により充実した指導をし、3年間部活動を継続できる生徒を増やしていく。	B	年度途中の退部者は昨年度に比べかなり減少した。入学時のオリエンテーションや機会を捉えて行っている特活課から顧問及び生徒への諸注意の効果と顧問による日頃の指導の成果だと感じる。 野球部が秋季県大会で3位となり、四国大会に2年連続4度目の出場をし、初のベスト4に進出した。	昨年度同様、入学時のオリエンテーションで3年間継続の重要性と意義を強調したい。部員確保や退部者を減らすよう、部活動運営を工夫したい。
		文化部各部において、計画的により充実した指導をし、3年間部活動を継続できる生徒を増やしていく。また、愛媛県高等学校総合文化祭等において、4つ以上の部と20人以上の参加を目指す。 A:4つ以上の部で20人以上参加 B:4つ以上の部で15人以上の参加、又は、3つの部で20人以上の参加 C:3つ又は2つの部で15人以上の参加 D:2つの部で15人未満の参加 E:D評価に届かない場合	A	年度途中の退部者は昨年度に比べかなり減少した。入学時のオリエンテーションや機会を捉えて行っている特活課から顧問及び生徒への諸注意の効果と顧問による日頃の指導の成果だと感じる。 愛媛県高等学校総合文化祭への参加は目標を達成できた。また、日本音楽部と吟詠剣詩舞が全国大会への出場を決めた。	昨年度同様、入学時のオリエンテーションで3年間継続の重要性と意義を強調したい。部員確保や退部者を減らすよう、部活動運営を工夫したい。 県高文祭参加生徒4部以上20名以上は来年度も達成したい。
	生徒会活動・家庭クラブ活動 委員会活動の活性化	生徒の自主的な計画・運営による生徒会活動、委員会活動、家庭クラブ活動をそれぞれ月1回以上実施し、更なる内容の向上を目指す。	B	新型コロナウイルス感染症の影響で各行事が中止や縮小になったが、生徒と教員が協力し合いながら内容を工夫して実施できた。	生徒会活動は、制約の中で可能な限り各役員が主体となった活動ができるよう工夫していきたい。 昨年度同様、男子役員が2名しかいないので、バランスを考え、もう少し増やしたい。
	自主的な奉仕活動	年間5回以上の奉仕活動、地域清掃活動を目指し、豊かな人間性の育成を目指す。生徒への各種ボランティア活動案内を広め、生徒全体の参加意識を高める。 A:5回以上、B:4回、C:3回 D:1～2回、E:0回	D	新型コロナウイルス感染症の影響で十分な活動はできなかったが、できる範囲内で対応することができた。	新型コロナウイルス感染症の状況にもよるが、可能な限りの活動は実施したい。 各種ボランティア活動への案内や参加の呼び掛けを円滑に行いたい。
同和・人権・教育	人権・同和問題学習の積極的推進	人権・同和教育ホームルーム活動に加え、人権委員による啓発活動や現地研修会などを実施し、生徒に主体的に人権問題に取り組む姿勢を身に付けさせる。	B	新型コロナウイルス感染症の影響のため、多くの地域の活動に参加できなかったが、人権・同和教育作品鑑賞会を新設し、PTA広報誌も工夫して作成することができた。	ピンクシャツ運動やシトラスリボン運動など、人権委員会の活動を拡充し、ホームルーム活動や啓発活動に生かしていけるようにしたい。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
広報・地域協働	地域に開かれた学校づくりの推進	「学校案内」や「ライフデザインだより」等の発行物で必要情報を伝え、ホームページでよりタイムリーな情報発信を行う。校外活動にも参加して情報を集め、親しみやすく開かれた学校づくりに努める。	A	「学校案内」「ライフデザインだより」等の発行物で情報を的確に発信できた。「学校案内」は内容を大幅刷新した。ホームページは、新しく構築したものを継続し毎日更新することができた。	発行物やホームページを通じて、よりタイムリーな情報を発信していきたい。「ライフデザインだより」の発行が少し遅れることがあったので改善したい。小・中学校との交流を図るなど、更に地域に開かれた学校づくりに努めていきたい。
	地域に根ざした特色ある学校づくりの推進	P T A ・同窓会や地域の諸団体の協力を仰ぎながら、「総合的な探究（学習）の時間」で、地域人材を活用した体験学習を実施する。特に、文部科学省の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の一環として、SDGsの観点を踏まえた授業等を実施し、特色ある学校づくりに努める。	B	地域の様々な方面の方々や協働し、地域人材を活用した講演会や実践を行うことができた。特に、ライフデザイン科では、文部科学省指定の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の一環として、公民館や市内の福祉施設で椿文化の普及活動を行ったり、小学校と連携してコロナ禍における余剰の鯛を使った給食メニューを考案し、魚食文化の普及活動を行ったりして特色ある学校づくりに努めた。生徒は、地域の人たちと関わりを持つ機会を持つことができた。	引き続き「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」を進める中で地域との連携を深め、生徒がコミュニケーション能力を身に付け、将来地域を支えるリーダーに育つような地域協働プロジェクトを推進していきたい。また、持続可能な開発目標の観点から、竹林整備活動を発展させた取組への挑戦、商品開発やイベント参加など生徒が主体的に活躍できる場を提供していきたい。
業務改善	適切な勤務時間	教職員の定時退勤日の設定や部活動の休日の確保などにより、教職員の勤務時間を守る。また、ICT導入で業務の効率化を図り、時間の有効活用を図る。	C	前半は、部活動休日の確保ができたこともあり、超過勤務時間月80時間以上の方が少なかったが、後半、教育活動の増加に伴って増えてきた。	定時退勤の設定日を増やしたり、時差出勤やテレワークの活用を勧めたりして、更に時間の有効活用を図りたい。また、グループウェアを活用し、調査や統計の回答を簡略化するなど、業務効率化に努めたい。
	職場環境の整備	健康講座や健康相談を定期的実施したり、休憩場所の環境改善を行ったりすることで、教職員の疲労や心理的負担の軽減を図る。	B	健康相談の資料の提示や校医との健康相談なども行っている。今年度は、職員室の給湯器の改修、男性休養室・女性休養室の環境改善を実施した。	男性休養室は、老朽化が進んでおり、畳、ふすまなどが古くなっている。過ごしやすい環境を少しでも整えたい。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。